CSR業界標準作成にあたって

株式会社最上インクス
経営企画　上田（うえた）　真理（まこと）

近頃、「企業の社会的責任」（CSR）という言葉をよく耳にするようになりました。「企業の社会的責任」（CSR）として一時盛んであったメセナ（文化への支援活動）や、利益の社会還元と考えている人も多いようですが果たしてそれだけでしょうか？

最近、CSRと言う言葉を聞くことが多くなりました。本協会でも金属プレス業界へのCSR普及を検討してきました。業界に特化した標準システム作成の一環として、㈱最上インクスに「第一段階：業界標準プロトタイプの作成」、「第二段階：（標準プロトタイプの検証として）自社システムの構築」を依頼しました。本稿は、CSRの背景・概要説明から始まり、作業概要および感想について同社よりご報告していただきました。（事務局）

時代背景と市場の変化

近年市場での企業価値の判断基準が変わりつつあるように思われます。例えば、これまでの投資市場において、投資評価は企業の財務分析による指標が使われていましたが、近年では財務分析に加え、社会・環境面から企業を選別して安定的な収益を目指す投資手法「社会責任投資」SRI（Social Responsible Investment）が使われています。企業が事業活動で得た利益を社会還元するという考え方から、企業の行っている活動が社会的に、環境的に良い活動なのかどうかが問われる時代になってきています。

CSRへの取組みは企業収益性と両立

CSRとは、英語のCorporate Social Responsibility　の頭文字を取った略語の事で、近年急速に普及しております。今現在CSRに付いて明確な定義はないようですが、我々は次のように考えております。『CSRとは、企業が「利潤の最大化」、「顧客満足度の向上」、「株主価値の拡大」に限らず、活動の基盤とする社会との関わり合いにおいて負わなくてはいけない責任のこと、すなわちCSRを重視する経営とは、日常の企業活動の中に、社会的公正性や倫理性、環境への配慮等を取り込んでいくこと』だと考えております。しかし、これら取組みを社会やステークホールダーに対して一方的に示すことだけでは不十分です。CSRの取組みの中には、リスクマネージメントや品質の向上、BCP（事業継続計画）なども含まれる事から、自社の競争力強化につながっており、結果として長期的な企業価値を高め、投資家や顧客企業から高い評価を得ることができるものでもあります。これまでCSRの取組みは、企業の社会的義務に付随するコストであるという見方が強かったですが、今では積極的なCSRへの取組みは、企業の収益性と両立するという認識さえ広まりつつあります。

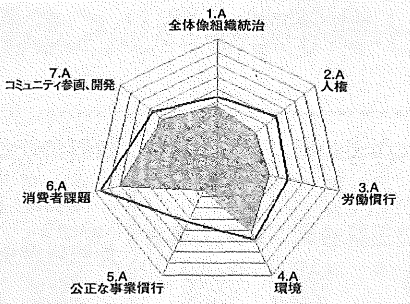
具体的な取組みと効果

CSR活動を積極的に行う為には、膨大なISO関連資料を基に数百ページにも及ぶマニュアルや帳票の作成を必要とし、金属プレス業界の多数を占める中小企業にとっては高い壁があります。もし、

業界標準化されたマニュアル、帳票類があり、企業はそれを自社用にカスタマイズするだけでシステムの構築・運用が可能となれば、どれだけ助かるか分かりません。当社も同様な悩を抱えていた中、業界標準化の話が持ち上がりました。以下取組について概要を報告します。

プレス企業向けCSR調査（ISO26000検証システム）　レーダーチャート

基準　ＳＩ社(文書整備後)2011.11.10　　診断　ＳＩ社(初期)　　要因+詳細



※青い文字の要因項目は、絶対要因ポイントとして指定されている項目です。　達成率

			(1)A 詳細	(2)A 詳細	(3)A 詳細	(4)A 詳細	(5)A 詳細	(6)A 詳細	(7)A 詳細	(8)AAA 詳細	(9)AAA 詳細	(10)AAA 詳細
要因項目	面積	総合得点	全体像組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティ参画、開発			
絶対要因												
基準	28.4	22.7	2.7	3.0	2.9	3.4	2.6	4.8	3.3			
		22.7	2.7	3.0	2.9	3.4	2.6	4.8	3.3			
診断	16.2	17.5	2.3	2.0	2.1	3.1	1.2	4.0	2.8			
		17.5	2.3	2.0	2.1	3.1	1.2	4.0	2.8			
診断-基準（差）	-12.2	-5.2	-0.4	-1.0	-0.8	-0.3	-1.4	-0.8	-0.5			
		-5.2	-0.4	-1.0	-0.8	-0.3	-1.4	-0.8	-0.5			

戻る｜計算｜元に戻す｜登録｜重合｜ランク変更｜ランク変更(診断のみ)｜印刷｜凡例｜グラフ｜画像｜基本情報｜変更前比較｜詳細比較

まず、マニュアルや帳票をプレス業界向けにカスタマイズした雛型（プロトタイプ）の作成を第1ステップとし、次にプロトタイプを使って自社CSRシステムを構築しながら1.プロタイプの修正、2.カスタマイズ期間の把握を中心とした検証を第2ステップとしました。作業にあたっては、株式会社イー・キュー・マネジメント（以下「イー社」）の指導のもと、イー社にてすでに中小企業向けに設問を絞り込んだ雛型（以下「基本プロトタイプ」）をベースに作業を進め、現在は第2ステップに取り組んでおります。終了とともに『金属プレス業界向けの標準雛型』が完成する予定です。

第1ステップにおいては基本プロタイプの設問の妥当性評価を主として行い、プロトタイプは2カ月程度で仕上りました。第2ステップでは、雛型が金属プレス業界内で汎用的に使えるように、新たに2社に加わっていただき、当社と同じ作業を進めております。構築にあたっては、設問に基づいて「帳票作成→評価→帳票修正」を行いながら進めました。また、企業評価にはチェックリスト方式を採用しており、それぞれの項目に5段階の評価を書き込むことでレーダーチャートが自動的に作成され、企業の魅力度が鮮明に見える工夫がされております。また、この項目に関してもプレス業界用にカスタマイズすることで、約250あった項目を50程度まで削減しました。項目のほとんどは、我々が既に取り組んでいる内容ですが、客観的に評価することができなかったことがレーダーチャートを使うことにより可能になったということが大きな利点です。

当社と同規模までの組織であれば、リーダー1人と2, 3名の推進者がいれば、社外の公表にも十分なCSR報告書が作成でき、マネージメントサイクルを構築することが可能であることが今回検証できました。

カスタマイズを早期に推進

CSRとは、決してハードルの高い取組みではなく日々取組まれている活動そのものがCSRであり、その活動内容を明文化することで企業の競争力を高めるという取組みです。早期にプレス業界向けのカスタマイズを完成させ、プレス業界の魅力度向上に貢献できれば幸いです。